

起動チェックリスト

事前準備 (所要時間 60分) : OK?

(ロータリーポンプが MS40 の場合、バラストバルブはありません)

- ・分電盤 SW200V On、200V ケーブルが装置に接続されているか確認
- ・ロータリーポンプのガスバラストバルブが閉じていることを確認
- ・ロータリーポンプの筐体が冷たくないか? オイルレベル OK か? 確認



*冬場に空調が落ちている場合にポンプの筐体が冷えてオイルが固くなっています。

この状態起動すると装置のヒューズが切れる場合がありますご注意ください。

- ・窒素ガス発生装置の電源を On にします。 **30分以上**暖機運転します
- 圧力: **0.65MPa** (規定値 0.6~0.7MPa)、流量バルブ: **フル Open** 確認

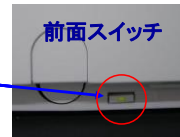


起動手順 (所要時間 スタート操作 30分程度、
待機時間 一晩から数日程度) : OK?

1. 装置の電源を投入します。

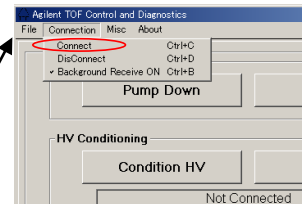
G1969,G6210A/G6220A:スイッチは2箇所

- ・本体左側面 白いスイッチ
- ・本体正面 左下のスイッチ

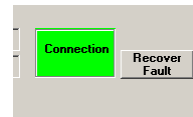


G6224A/30A : スwitchは1ヶ所あります。

- ・本体正面左下のスイッチ



2. ロータリーポンプが起動し始めた事を確認します。
3. ターボが起動し回転し始める事を確認します。
4. 異音がないかポンプが停止しないか確認し暫く様子をみます。
5. PC を立ち上げ、Windows をログインします。
6. Q-TOF Diagnostic Tool SVC を起動します。
7. プルダウン[Connction]→[Connect]を選択しデフォルトの IP アドレスで OK をクリックします。
ステータスがコネクトになることを確認します。
8. タブメニュー[Parameters]を選択し左下に表示されている真空度を確認します。



Turbo 1、(2) の回転が **100%** Turbo 2 の真空度が**停止前と同程度**、または **5*10⁻⁷ 乗程度** OK?

*真空度の安定状態到達までには数日程度かかる場合があります。

真空安定度後確認 (所要時間 30分~2時間) :

1. Diagnostics ソフトウェアをクローズします。
2. LC の電源を投入し MassHunterAcq を起動します。
3. チューニング画面に切り替えキャリブラントを流してピークの確認をします。
4. キャリブレーションをチェックしレゾリューションと Mass 軸のズレを確認します。

OK?